

## 板書例

### <登場人物>

- ・源氏
- ・惟光の朝臣（源氏の乳母子）
- ・尼
  - なやましげ
  - ただ人と見えず
  - 四十余ばかり
  - いと白うあてに～今めかし
- ・清げなる大人二人
  - 少納言の乳母（女子の後見）
  - 髪ゆるるかにいと長く、目安き人なめり
- ・童べ
- ・犬君
  - 例の心なし
- ・女子
  - 十ばかり
  - 白き衣、山吹などの萎えたる着て走り来たる
  - あまた見えつる子どもに似るべうもあらず～うつくしげなるかたち
  - 髪は、扇を広げたるやうにゆらゆらとして
  - 顔は、いと赤くすりなして
  - 尼君の見上げたるに、少しおぼえたるどころあれば、子なめり

### <場面＝見ている側>

- where かの小柴垣のもと
- when 夕暮れ
- what 立ち出で給ふ → のぞき給へば
- who 光源氏（惟光）
- why 日もいと長きに、つれづれなれば
- how 夕暮れ<sup>の</sup>いたう霞みたるにまぎれて

### <場面＝見られている側>

- where この西面
- when 夕暮れ
- what 行ふ 花奉る
- who 尼
- why 夕暮れ
- how 持仏据ゑ奉りて